



# 寺報 ともしび

金剛山大長寺

令和五年四月二十三日発行

第二十号



京都北山杉と宮大工の匠から成る潮音寺の東屋で。み仏の慈悲を求め、康哉師は、お寺を訪ねる方々に東屋をお気軽に利用して頂きたいと呼びかけています。

世界の困難をひらく み仏の慈悲の心  
施食会に因んで

安藤 康哉 (大長寺小住)

令和五年三月、不思議な因縁に導かれて無事完成した東屋(潮音寺あずまや)に独り忽然と…坐して唱え申し上げた。「願わくはこの功德をもってあまねく一切に及ぼし我らと衆生と皆共に仏の道を成ぜんことを」と合掌礼拝いたしました。私共は一本の草木の根元に呼びかけ「花を咲かせて下さい」「心に花を咲かせて下さい」「どうかどうか心に花を咲かせて下さい」と呼びかけました。

今、世界はぼう然と困惑の中に浮沈している有りさまです。しかもどうすることも出来ないでいる苦悩の毎日を生きているのです。この現状を救っていただけるのはみ仏の広大無辺の慈悲の心におすがりする以外には道は有りません、どうかお救い下さいと願わずにはいられません。

南無釈迦牟尼仏 高祖承陽大師 太祖常濟大師 尽十方法界三宝 と唱えます。

# 今を精一杯生きる

大長寺 院代 安藤嘉則

花は愛惜あいじやくに散り 草は棄嫌きけんにおふるのみなり

道元禪師『正法眼蔵』「現成公案」より

はかなく散りゆくゆくの桜花を惜しむ一方で、庭に生い茂る雑草には嫌悪する、そんな私たちの感情を取り上げ、道元禪師は私たちのものの見方を問うています。いったい庭先の草々は、ただむしりとられるだけの存在なのでしようか。

かつて松尾芭蕉は深川の庵でひっそり咲くナズナや山道に咲くスマレに対して感動をもって俳句を詠んでいます。

「よく見れば薺花なずな咲く 垣根かな」

「山路来て なにやらゆかし すみれ草」

ここに詠われているのは「雑草」としてのナズナやスマレではありません。ナズナはナズナとして、スマレはスマレとして、大地の片隅で精一杯咲いている、そのいのちの輝きを芭蕉は感じ取っています。野山に生える草々は、はじめから「雑草」なのではありません。人の住む空間(庭や畑)に生えると「雑草」といわれるのであり、いわば「雑草」とは私たちの心の分別の所産といえます。

私たちには心の中に「私の物差し」があつて、美醜、是非善悪など様々な分別をしています。その「私の物差し」ですが、

その人の置かれた立場や経験によつてその尺度が異なり、またその人のご都合で分別に狂いが生じてきます。私たちのレベルならまだしも、強大な権力者が、自分に利する方策のみを正しいとし、反対意見を悪として排除する、そんな心の物差しが、人々への弾圧や戦争を生み出し、悲劇をもたらしてきたのではないでしようか。

さて駒沢学園は建学の精神として「正念」を掲げています。これは坐禅による、とらわれのない心のあり方であり、「私の物差し」から見た心の分別をいったんご破算にして、ゼロポイントからありのままのものごとをみつめていくことです。坐禅では一つ一つの息を見つめ、今の瞬間瞬間に息づく自分自身を確認し心を整えます。「息」という漢字は「自」と「心」とで



構成されますが、「息」を調えることは「自らの心」と調えることにつながるので。坐禅中、心には雑念が大空に湧く雲のように次々と湧いてきます。大切なのはそれを相手にせず、放っておくことです。大空の雲は放っておけばいつの間にか消えてしましますが、私たちの心の雲はそうもいきません。何年も前のことが今の私の心の雲として残り(トラウマ)、今日の私を支配していたりします。大切なことは、この瞬間瞬間に息づく私がゼロポイントに立ち返り、今はどこにも存在しない過去に生きないことなのです。今を精一杯生きることなのです。

## 特別志納者の紹介

壹拾万円也	為年回供養	大井町井上	仲治	壹拾万円也	為年回供養	上島	井上	昌一
貳万円也	為年回供養	榎本小野	友靖	壹拾万円也	為年回供養	上島	北村	隆行
参万円也	為大練忌供養	榎本井上	喜道	壹拾万円也	為年回供養	横浜	大島	重人
壹拾万円也	為葬儀供養	榎本石井	悦子	壹拾万円也	為年回供養	下島	井上	重訓
参万円也	為年回供養	小田原井上	喜司	壹拾万円也	為年回供養	下島	辻村	尚則

# 三年ぶりの施食会

副住職 安藤道隆

コロナ禍により、時間を分散して開催していた「施食会」につきまして、三年ぶりに一堂に会して、大長寺本堂にて、開催する事となりました。

これは、ワクチン接種が進み、感染症の沈静化が進み、国の法律で定める感染症の分類が、五月から「五類」に引き下げられることに鑑みためのであります。

また、大長寺は、周辺の曹洞宗の寺院で構成される「神奈川県第一宗務所第十教区」という組合のような組織があり、それに属しております。

それに属しております他の寺院におかれましても、大長寺と同じく、「施食会」を開催しておりますが、今年から、一堂に会して開催する形となりました。これに合わせて、大長寺も、以前の形に戻し、開催するに至った次第であり

ます。

ちなみに、その「第十教区」に属している寺院は、兼務している寺院も含め十六ヶ寺ありますが、そのご住職さまが大長寺の施食会の法要に参列いただき、読経していただいております。

施食会の法要では、檀信徒各家先祖代々諸精霊に供物を捧げ、大勢の僧侶が読経して、その功德を廻らします。通常の一週忌などのご法事とは異なり、大勢の僧侶が読経し、それぞれの僧侶の方々が知力を発揮され、同じ仏道を歩む僧侶がともに修行（厳修）することによって、成し遂げられる貴重な法要であります。これを仏教用語では、「大衆の威神力」としてあります。

ちなみに、大長寺に、来ていただいております近隣のお寺さまは、福昌院（松田寄）・

龍王寺（松田寄）・長泉院（塚原）・西福寺（延沢）・延命寺（松田惣領）・善栄寺（栢山）・天王院（塚原）・大松寺（竹松）・宗繁寺（曾比）・福田寺（和田河原）・盛徳寺（牛島）・江月院（矢倉沢）の方丈様がたであります。

お檀家の皆様の中には、ご親戚が、これらのお寺さまが菩提寺である方もいらっしゃるでしょう。

末尾に、施食会の法要にご参列いただく際には、コロナが完全に収束しているわけではありませんので、引き続き、感染防止に努めていただき、各家先祖代々諸精霊に想いを廻らしていただきたく願います。



## ご逝去の方々と命日

・故 井上 榮子 様

行年 九十三歳

令和四年十二月十七日没

小田原秦野市

施主 井上 申也 様

・故 井上 恵美子 様

行年 九十五歳

令和五年一月二日没

小田原市

施主 井上 喜司 様

・故 遠藤 董美 様

行年 八十八歳

令和五年一月四日没

河原町

施主 遠藤 貢 様

・故 落合 照子 様

行年 八十八歳

令和五年一月二十三日没

南足柄市

施主 落合 邦男 様

・故 田代 悦子 様

行年 八十六歳

令和五年一月二十四日没

東京

施主 田代 恵美子 様

・故 辻村 京子 様

行年 八十歳

令和五年二月八日没

下島

施主 辻村 伸次 様

・故 北村 正実 様

行年 七十四歳

令和五年二月十三日没

中家村

施主 北村 成子 様

・故 秋山 チヨ子 様

行年 八十六歳

令和五年三月六日没

小田原市

施主 秋山 隆継 様

・故 米山 清榮 様

行年 九十八歳

令和五年三月八日没

小田原市

施主 梶塚 智成 様

・故 辻村 ノブ子 様

行年 九十一歳

令和五年三月九日没

下島

施主 辻村 尚則 様

・故 神村 美佐子 様

行年 七十三歳

令和五年三月十四日没

上島

施主 神村 知紀 様

・故 井上 忠治 様

行年 九十一歳

令和五年三月十七日没

開成町

施主 井上 幸治 様

・故 石井 禎二 様

行年 七十六歳

令和五年三月二十日没

上島

施主 石井 寿一 様

・故 志村 五雄 様

行年 八十七歳

令和五年三月二十九日没

厚木市

施主 志村 智恵美 様

・故 井上 千代子 様

行年 百五歳

令和五年四月二日没

上島

施主 井上 光明 様

・故 佐藤 恵子 様

行年 八十三歳

令和五年四月七日没

中家村

施主 佐藤 孝行 様

・故 小松 きくゑ 様

行年 百四歳

令和五年四月十四日没

広島

施主 小松 一樹 様

# 《文化》花まつり茶会記

大長寺 小澤宗撰

穏やかな春の日和の中、檀家様や、地域の方々にお声かけしての初めての茶会でした。お参りの方にはお花見堂に甘茶をかけて、甘茶を飲んでいただいたり、お釈迦さまのお誕生日を盛り上げていただきました。

作陶の山岡先生の作品も素晴らしくお人柄とセンスが光っております。

茶席は、全て椅子で作法を知らない方でも楽しんでいただけるようお席をご用意致しました。出る時には、とても楽しかったと皆様におっしゃって頂きました。お寺に足を運んで頂き誠にありがとうございました。

